

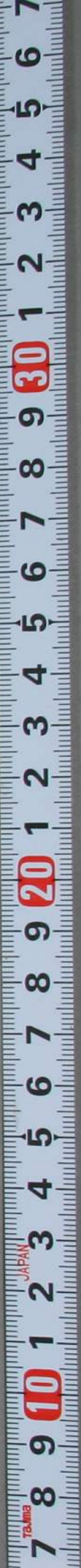


夫木和歌抄

卷之六



7814
1.765
26



143

門八割々
1765
26

袖のくさくさのうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

あまのついでにうらみはかきとるはなはな

以下九首灘歌雑乱

万本

舟出

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

X

Handwritten cursive text with red annotations: 甲申 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

Handwritten cursive text with red annotations: 卯 指中納言

百二百年一行事

後醍醐天皇御

後醍醐天皇御

百二百年一合家梅松

中興指大之松房也

百二百年後

弟大納言資孝也

平賀正隆

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

三三
二四
六九

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

百二百年古首月

358

大

玉旅 **松浦** のまはりのり あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

四葉 あなごの磯 陸奥

忠孝

家 六帖四十一 **玉加賀** 六帖 **あなごの磯** の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

大磯 永之軍一百人 大いそ 相換 仲定 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

新屋 あなごの磯 常陸 あなごの磯 の磯

六帖 **あなごの磯** の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

あなごの磯 あなごの磯 の磯 後画 あなごの磯 の磯

あなごの磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

あなごの磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

沖津 **あなごの磯** あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

あなごの磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

三行分 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

あなごの磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

新六三 **あなごの磯** あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

あなごの磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

常陸 **あなごの磯** あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

あなごの磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯 あなごの磯 の磯

お梅のうら^{さ中}くさう^{結後拾夏}梅のふれ^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}
橋川院の町^{結後拾夏}

波のうら^{結後拾夏}くさう^{結後拾夏}梅のふれ^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}
あま^{結後拾夏}

海^{結後拾夏}のうら^{結後拾夏}くさう^{結後拾夏}梅のふれ^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}
あま^{結後拾夏}

詣り中

み^{結後拾夏}のうら^{結後拾夏}くさう^{結後拾夏}梅のふれ^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}
あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}のうら^{結後拾夏}くさう^{結後拾夏}梅のふれ^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}
あま^{結後拾夏}

参り廻り^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}のうら^{結後拾夏}くさう^{結後拾夏}梅のふれ^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}
あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}のうら^{結後拾夏}くさう^{結後拾夏}梅のふれ^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}
あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}のうら^{結後拾夏}くさう^{結後拾夏}梅のふれ^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}
あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}のうら^{結後拾夏}くさう^{結後拾夏}梅のふれ^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}のり^{結後拾夏}
あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}

あま^{結後拾夏}

伊勢島

~~~~~

龍舟中

船中

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



武田信玄

王國

善道

常陸

常陸

武田信玄 常陸

武田信玄 常陸

武田信玄

武田信玄

武田信玄

玉手箱

海路

海路

鳴り

武田

武田信玄

武田信玄

武田信玄

武田信玄

武田信玄

武田信玄

武田信玄

武田信玄

音  
しるしとておのころは  
たし

あやうき口絶て人知らぬ  
後頼の旨

新六三  
あはれしうき口絶て人知らぬ  
のり  
あはれしうき口絶て人知らぬ  
後頼の旨

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

女部花  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ  
あはれしうき口絶て人知らぬ

新拾遺 賀

か... 行... 行

おきよ

浪

塩

指 杖 崎

おきよ

西

あ... 白...

おきよ

通

天地

あ... の...

布

神

あ... の...

伊勢

丸

新

あ... の...

紙

中

あ... の...

大

傳

あ... の...

母

日

住

あ... の...

あ... の...

日











萬三 のり 日 橋 のり 橋 のり

千八百五十四年

新千原

波うららめちの 新千原 波うららめちの 新千原

為家 のり 為家 のり

家 のり 家 のり

家 のり 家 のり

新千原 のり 新千原 のり

新千原 のり 新千原 のり

萬三 のり 萬三 のり

新千原 のり 新千原 のり

三

萬三 のり 萬三 のり

千首 のり 千首 のり

輪 のり 輪 のり

輪 のり 輪 のり

輪 のり 輪 のり

輪 のり 輪 のり

輪 のり 輪 のり

輪 のり 輪 のり

輪 のり 輪 のり

輪 のり 輪 のり

369

(B)

連  
 三行分トル  
 三行分トル  
 三行分トル  
 三行分トル  
 三行分トル

取え...  
 注指歌紙  
 勘

新六三  
 日  
 新六三  
 新六三

新六三  
 新六三  
 新六三

新六三

題不知

屋主主人

中勢白  
 中勢白  
 中勢白

中勢白  
 中勢白  
 中勢白

注指歌紙

中勢白  
 中勢白  
 中勢白

中勢白

中勢白  
 中勢白  
 中勢白

中勢白



<sup>三</sup>明石

ころり火のあしきかこいふらふらと見ればさしづめの家

貞徳三年平百首 牛家 後家 氏名由家

うまかきあひのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

じろのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

<sup>五</sup>しらのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

いろいろのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

いろいろのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

いろいろのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

いろいろのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

いろいろのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

いろいろのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

いろいろのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家

いろいろのうまのひさのふりてあはれなるみまのふりてあはれなる

貞徳三年平百首 情 氏名由家





可

後二信

Omura... (cursive handwriting)

あや

前大宛

最久...

... (cursive handwriting with red annotations)

和泉式部

... (cursive handwriting with red annotations)

多々補

... (cursive handwriting)

あま

...

... (cursive handwriting with red annotations)

...

... (cursive handwriting)

...

...

... (cursive handwriting)

...

... (cursive handwriting)

有原為真

...







<sup>1</sup> 山手

鳥居

くすくす of 山手 <sup>伏</sup> 伏

鳥居

鳥居

くすくす of 山手

鳥居

鳥居

くすくす of 山手

<sup>1</sup> 山手

鳥居

くすくす of 山手

鳥居

くすくす of 山手

鳥居

鳥居

くすくす of 山手

鳥居

鳥居

くすくす of 山手

鳥居

鳥居

くすくす of 山手

鳥居

くすくす of 山手

くすくす of 山手

くすくす of 山手

三下  
かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは

新西院入及二名親とあふ千首

三下  
三下  
三下

河原  
何とくともこの中

永之四年八月

源経光

又秀一すこののりり  
かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは

5  
かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは

紀伊  
紀伊

三下  
三下  
三下  
かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは

新西院入

かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは  
かきつらふかたのまは

日あきつし

推しぬえきあか

あきつしよりよみゆくあきの舟あきつし岸

由中老死し病をお忍除物主と思ふ人ふ業

治しぬえき

舟中約三景あか

船中約三景あか

見松

意松

舟中

あきの舟の舟あきつしよりよみゆくあきの舟あきつし

舟中約三景あか

中院入る松

あきの舟の舟あきつしよりよみゆくあきの舟あきつし

舟中約三景あか

舟中約三景あか

あきの舟の舟あきつしよりよみゆくあきの舟あきつし

舟中約三景あか

舟中約三景あか

あきの舟の舟あきつしよりよみゆくあきの舟あきつし

舟中約三景あか

舟中約三景あか

舟中約三景あか

あきの舟の舟あきつしよりよみゆくあきの舟あきつし

舟中約三景あか

舟中約三景あか

あきの舟の舟あきつしよりよみゆくあきの舟あきつし

舟中約三景あか





車持の年一

あつちの山をのりてゆくはなはた

あつち

あつち

あつちの山をのりてゆくはなはた

あつち

あつち

あつちの山をのりてゆくはなはた

あつち

あつち

あつちの山をのりてゆくはなはた

あつち

あつち

あつちの山をのりてゆくはなはた

あつち

三三三

あつちの山をのりてゆくはなはた

あつち

あつち

あつちの山をのりてゆくはなはた

あつち

あつち

あつちの山をのりてゆくはなはた

あつち

あつち

あつちの山をのりてゆくはなはた

あつち

あつち

あつちの山をのりてゆくはなはた

382

あつち

あつち

あつちの山をのりてゆくはなはた

しんじのほむき<sup>た</sup>ん<sup>け</sup>の浦のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

と和歌 *wasuta*

奏<sup>し</sup>洲<sup>しゅう</sup>

長<sup>ちやう</sup>三<sup>さん</sup>田<sup>てん</sup>言<sup>げん</sup>

しんじのほむき<sup>た</sup>ん<sup>け</sup>の浦のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

洞院持政<sup>どういんぢてい</sup>百首<sup>ひゃくしゅ</sup>他<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>成<sup>な</sup>る<sup>る</sup>内<sup>うち</sup>敷<sup>しき</sup>

*Shinji no homuki nanki no ura no taren kin*

浦<sup>うら</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>のほむき<sup>た</sup>ん<sup>け</sup>の浦<sup>うら</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

あまの月<sup>あまのつき</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

成<sup>な</sup>る<sup>る</sup>内<sup>うち</sup>敷<sup>しき</sup>

あまの月<sup>あまのつき</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

月<sup>つき</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

後<sup>ご</sup>鳥<sup>とり</sup>法師<sup>ほうし</sup>

あまの月<sup>あまのつき</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

新<sup>あらた</sup>あや<sup>あや</sup>

長<sup>ちやう</sup>三<sup>さん</sup>田<sup>てん</sup>言<sup>げん</sup>

あまの月<sup>あまのつき</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

思<sup>おも</sup>入<sup>い</sup>る<sup>る</sup>持<sup>ぢ</sup>政<sup>てい</sup>百<sup>ひゃく</sup>首<sup>しゅ</sup>の<sup>の</sup>例<sup>れい</sup>儀<sup>ぎ</sup>

成<sup>な</sup>る<sup>る</sup>内<sup>うち</sup>敷<sup>しき</sup>

あまの月<sup>あまのつき</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

海<sup>うみ</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

あまの月<sup>あまのつき</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

あまの月<sup>あまのつき</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

あまの月<sup>あまのつき</sup>のた<sup>り</sup>ん<sup>の</sup>き<sup>ん</sup>

Handwritten cursive text on the top left of page 384, including the number 384 at the top. The text is written in black ink with some red annotations.

Handwritten cursive text on the middle left of page 384, featuring a large red character '音' (sound) and other annotations.

Handwritten cursive text on the bottom left of page 384, with a large red bracket and the characters '三行カトル' (three rows of four).

Handwritten cursive text on the middle right of page 384, including the characters '万七' (17,000) and '吉' (auspicious).

Handwritten cursive text on the bottom right of page 384, with various annotations and a red character '日' (day).

Handwritten cursive text on the top left of page 385, including the characters '建保' (Kenpo) and '四年' (year 4).

Handwritten cursive text on the middle left of page 385, with a large red character '現' (present) and other annotations.

Handwritten cursive text on the middle right of page 385, including the characters '三行カトル' (three rows of four).

Handwritten cursive text on the bottom right of page 385, with various annotations and a red character '日' (day).

又社百首者

皇太后御成

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

皇太后御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

後代御成

石<sup>石</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成

日

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

日

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

文意元年毎日中一隊の御成<sup>た</sup>

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成

御成

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

御成

御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>の御成<sup>た</sup>

Handwritten text in cursive script, possibly a title or introductory line.

Handwritten text in cursive script, including a red circled area.

Handwritten text in cursive script, possibly a name or address.

Large block of handwritten cursive text with several red annotations and a red line underlining.

誰 (Who)

Handwritten cursive text starting with a red mark.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in cursive script, possibly a name.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or index, with red annotations.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

達之二年 若くは 若くは 若くは 若くは 若くは

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or index, with red annotations.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or index, with red annotations.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or index, with red annotations.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or index, with red annotations.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or index, with red annotations.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or index, with red annotations.

Handwritten text, possibly a name or title.

Handwritten text, possibly a name or title.

本  
建保三年  
丁酉  
八月  
廿四日  
白

建保三年八月廿四日

丁酉

白

八月廿四日

建保三年八月廿四日

本  
建保三年八月廿四日

建保三年八月廿四日

八月廿四日

本  
建保三年八月廿四日

建保三年八月廿四日

八月廿四日

本  
建保三年八月廿四日  
丁酉  
八月  
廿四日  
白

本  
建保三年八月廿四日  
丁酉  
八月  
廿四日  
白



達也七年歌の歌  
尾  
千首歌  
巻尾  
少歌  
根

歌名の中

歌名の中

歌名の中

新拾雅中  
歌  
三  
尾

新拾雅中

歌集

結句は

かた

達也七年歌の歌

達也七年歌の歌

達也七年歌の歌

石向  
歌  
尾

新拾雅中

歌集

達也七年歌の歌

結句は

音

歌集

結句は

達也七年歌の歌

達也七年歌の歌

達也七年歌の歌

達也七年歌の歌

達也七年歌の歌

達也七年歌の歌

光徳朝臣

美くそいふはけり院のふられよのそよりあけり

二百五十人中 好忠

わびの院のふらりまはけりたのけのまそ言はる

建永二年百首中合 在系侍別朝臣

しる白の院そのふらりまの院のふらりまの

弟時直まきの河 兼全村

初瀬女 ちすのふらりまのふらりまの院のふらりまの

百首中合 なる院中合

泊瀬の神こそあふらりまのふらりまの院のふらりまの

ちけり院のふらりまの

後朝朝臣

ふらの院のふらりまのふらりまの院のふらりまの

中納言朝臣

ふらの院のふらりまのふらりまの院のふらりまの

大納言朝臣

ふらの院のふらりまのふらりまの院のふらりまの

後二位家隆朝臣

ふらの院のふらりまのふらりまの院のふらりまの

建保二年百首中合 後二位朝臣

春の雪のふるり<sup>は</sup>の<sup>せ</sup>つし<sup>も</sup>の<sup>こ</sup>ほし<sup>を</sup>か<sup>く</sup>た<sup>る</sup>て<sup>は</sup>な<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>  
下集<sup>す</sup>らの<sup>た</sup>て<sup>は</sup>  
鎌倉<sup>の</sup>お<sup>き</sup>な<sup>り</sup>

み<sup>ま</sup>の<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>  
下集<sup>す</sup>らの<sup>た</sup>て<sup>は</sup>  
鎌倉<sup>の</sup>お<sup>き</sup>な<sup>り</sup>

あ<sup>か</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>  
下集<sup>す</sup>らの<sup>た</sup>て<sup>は</sup>  
鎌倉<sup>の</sup>お<sup>き</sup>な<sup>り</sup>

あ<sup>か</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>  
下集<sup>す</sup>らの<sup>た</sup>て<sup>は</sup>  
鎌倉<sup>の</sup>お<sup>き</sup>な<sup>り</sup>

あ<sup>か</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>  
下集<sup>す</sup>らの<sup>た</sup>て<sup>は</sup>  
鎌倉<sup>の</sup>お<sup>き</sup>な<sup>り</sup>

あ<sup>か</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>  
下集<sup>す</sup>らの<sup>た</sup>て<sup>は</sup>  
鎌倉<sup>の</sup>お<sup>き</sup>な<sup>り</sup>

あ<sup>か</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>  
下集<sup>す</sup>らの<sup>た</sup>て<sup>は</sup>  
鎌倉<sup>の</sup>お<sup>き</sup>な<sup>り</sup>

あ<sup>か</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>の<sup>あ</sup>の<sup>い</sup>の<sup>ほ</sup>  
下集<sup>す</sup>らの<sup>た</sup>て<sup>は</sup>  
鎌倉<sup>の</sup>お<sup>き</sup>な<sup>り</sup>

新保宮

新保宮の御宇に於ては

文治三年壬午年

の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

清和天皇の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

中務

新保宮の御宇に於ては

中務

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては

新保宮の御宇に於ては



治元元年百首  
後二位の歌  
治元元年八月金吾は下為平合書

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

治元元年百首

わいのをの...  
おの...  
あまの...  
あまの...  
あまの...  
あまの...

遠保三年...  
あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...  
あまの...  
あまの...

あまの...  
あまの...  
あまの...  
あまの...  
あまの...





新三  
 壺  
 可首由平  
 萬海可首由平  
 建中三年百三  
 信実  
 拾律師  
 拾律師  
 拾律師

新三  
 壺  
 可首由平  
 萬海可首由平  
 建中三年百三  
 信実  
 拾律師  
 拾律師  
 拾律師

〜~~...~~井の...  
水

三位

大 有美の...  
遠中

...  
...

寛治二年 百首

山ヶ小里...  
...

源仲正

為忠後百首

毎日一首

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

三 〇のさのり井とみさの井のつづり <sup>鳥</sup> 〇のさのり井のつづり

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井とみさの井のつづり <sup>伊勢</sup> のつづり <sup>伊勢</sup>

5 <sup>二ノノ</sup> けす <sup>遺米</sup> 和銅元年四月遺 <sup>手</sup> 長岡 <sup>手</sup> 伊勢大

久 <sup>井</sup> 久 <sup>井</sup> 久 <sup>井</sup>

〇のさのり井とみさの井のつづり <sup>伊勢</sup> 久 <sup>井</sup>

神代 <sup>伊勢</sup> のつづり <sup>伊勢</sup> のつづり <sup>伊勢</sup>

神代 <sup>伊勢</sup> のつづり <sup>伊勢</sup> のつづり <sup>伊勢</sup>

思 <sup>同</sup> のつづり <sup>伊勢</sup> のつづり <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

あ <sup>伊勢</sup> のつづり <sup>伊勢</sup> のつづり <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

〇のさのり井 <sup>伊勢</sup>

百首出年

中誓の心

さきよけらみせわすの 草 井

千五百首年合

しんせいの

百首出年

さきよけらみせわすの 草 井

泉集の源と

後年の信

さきよけらみせわすの 草 井

泉集

光後の信

さきよけらみせわすの 草 井

田 用の 草 井

好意

さきよけらみせわすの 草 井

龜鏡 草 井

好意 草 井

さきよけらみせわすの 草 井

さきよけらみせわすの 草 井

千五百首年合

好意

さきよけらみせわすの 草 井

那智那曝井年 犯伊

さきよけらみせわすの 草 井

年林苑年合

善念法師

さきよけらみせわすの 草 井

中誓の心と源年合

とるたのるらにむらして落わらんうまの夜みりし井の

影なき いさりの年

よしみ あしき

ふのきをれいりの三井いよの つ 張

千首年

民の家の郷

お月ぬい おまほ え の年

六世

正に位名

花らのてまの か え の年 た

いさ 井 あ 白

おん 成 分

え ち け け の年 た 高 た た た た

遠去八年百首年合 三 位 名 名

す い た 月 の し の 年 た た た た た

後年中 ま の 年

南東 の 年 の 年

流 わ ら う の 年 の 年 の 年 の 年

お ま の 年 の 年

鴨 の 年

お ま の 年 の 年 の 年 の 年 の 年

お ま の 年 の 年

お ま の 年 の 年

亀鏡 の 年 の 年 の 年 の 年

お ま の 年 の 年 の 年 の 年 の 年

題 不 知

鴨 の 年

お ま の 年 の 年 の 年 の 年 の 年

つ き

海を渡る船は...  
船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

船の出入り...  
船の出入り...  
船の出入り...

三十一回

遊

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

遊 遊 鳴 鳴

行 行 遊 遊

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

遊 遊 鳴 鳴

行 行 遊 遊

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

遊 遊 鳴 鳴

行 行 遊 遊

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

鳴 鳴 行 行 遊 遊 鳴 鳴

割注

大草  
草  
みくら

日 二行  
日 三行  
日 四行  
日 五行

みくら  
みくら  
みくら  
みくら  
みくら

温泉  
三行  
三行  
三行

相換  
相換  
相換

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

き湯  
き湯  
き湯  
き湯  
き湯

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

家集  
後集  
後集  
後集  
後集

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

あは  
あは  
あは  
あは  
あは

404



*Shirayuki no yuki no*  
*Shirayuki no yuki no*

雪  
 雪

*Shirayuki no yuki no*  
*Shirayuki no yuki no*

雪  
 雪

*Shirayuki no yuki no*  
*Shirayuki no yuki no*

雪  
 雪

*Shirayuki no yuki no*  
*Shirayuki no yuki no*

雪  
 雪

*Shirayuki no yuki no*  
*Shirayuki no yuki no*

雪  
 雪

*Shirayuki no yuki no*  
*Shirayuki no yuki no*

雪  
 雪

*Shirayuki no yuki no*  
*Shirayuki no yuki no*

雪  
 雪

中勢の親王殿方合あり 持傍ららむ

はらわしひよそくくありき <sup>氷</sup>のあはしつとほろあそら

又新 <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub>

茶中納 <sup>ハ</sup> <sub>シ</sub>

ゆゑあふひのちつひの遠くつらあふゝ <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub> のし <sup>ら</sup> <sub>ハ</sub>

文治六年二月廿九日 文治六年二月廿九日

あふひのちつひの遠くつらあふゝ <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub> のし <sup>ら</sup> <sub>ハ</sub>

茶中納 <sup>ハ</sup> <sub>シ</sub>

あふひのちつひの遠くつらあふゝ <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub> のし <sup>ら</sup> <sub>ハ</sub>

文治二年一月廿日

あふひのちつひの遠くつらあふゝ <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub> のし <sup>ら</sup> <sub>ハ</sub>

中勢の親王殿方合あり

あふひのちつひの遠くつらあふゝ <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub> のし <sup>ら</sup> <sub>ハ</sub>

玉推 <sup>四</sup> 雅成のみ

あふひのちつひの遠くつらあふゝ <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub> のし <sup>ら</sup> <sub>ハ</sub>

中勢の親王殿方合あり

あふひのちつひの遠くつらあふゝ <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub> のし <sup>ら</sup> <sub>ハ</sub>

後三位の親王

あふひのちつひの遠くつらあふゝ <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub> のし <sup>ら</sup> <sub>ハ</sub>

文治六年二月廿九日

あふひのちつひの遠くつらあふゝ <sup>ノ</sup> <sub>カ</sub> のし <sup>ら</sup> <sub>ハ</sub>

かゝるのふらふらと云ふは  
後松祐信

あまのこゝろ

詞先集下  
あまのこゝろのふらふらと云ふは  
後松祐信

あまのこゝろ

後松祐信

後松祐信  
あまのこゝろのふらふらと云ふは

あまのこゝろのふらふらと云ふは  
あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのふらふらと云ふは  
あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのふらふらと云ふは  
あまのこゝろ

あまのこゝろのふらふらと云ふは  
あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのふらふらと云ふは  
あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのふらふらと云ふは  
あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのふらふらと云ふは  
あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろ

あまのこゝろのふらふらと云ふは  
あまのこゝろ

お水急 おちうのきゆう

日

全書上 いらぬちぬりうの清水急 え いたるちうのぬき

船久四年百三避暑 仲美船長

ふもろぬりうのぬき あま ぬり あま ぬり あま ぬり あま ぬり

あま ぬり

後船長 あま

あち あま ぬり あま ぬり あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり

は船長 あま

あま ぬり あま ぬり あま ぬり あま ぬり

源仲 あま

あち あま ぬり あま ぬり あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり

日

七

あち あま ぬり あま ぬり あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり

日

あち あま ぬり あま ぬり あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり

あち あま ぬり あま ぬり

とふ火のい書けのあよ腫ぬれてしとあ葉のいんた  
は奇指申細き通傷々ま目よりりあつてとふ  
こりのけ

右播磨守院及水内信子殿申候事

殿申の事  
傳子

大藏右大臣

とふ火のい書けのあよ腫ぬれてしとあ葉のいんた

日

具親お

あさみのむ野中の志あはれこのあひしんこのと露

あ葉

西行の人

續後撰旅むかしあさみのむ野中の志あはれこのあひしんこのと露

は平の播磨のあはれこのあひしんこのと露  
は平の播磨のあはれこのあひしんこのと露

あ葉

日

あさみのむ野中の志あはれこのあひしんこのと露

建武二年百三十一命

あさみのむ野中の志あはれこのあひしんこのと露

あ葉

後任のあ

あさみのむ野中の志あはれこのあひしんこのと露

あ葉

右後任のあ

例の世にひびくはつこうつあすくかほ人のちのあわらう

百首くよそお

東陽院御書

らりふ<sup>94</sup>やま<sup>94</sup>らら<sup>94</sup>のあ<sup>94</sup>ま<sup>94</sup>て<sup>94</sup>い<sup>94</sup>ま<sup>94</sup>あ<sup>94</sup>ま<sup>94</sup>あ<sup>94</sup>ま<sup>94</sup>あ<sup>94</sup>ま<sup>94</sup>

海に院の御百首

持中物と師討合

ふ<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>い<sup>100</sup>の<sup>100</sup>ほ<sup>100</sup>そ<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>は<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>め<sup>100</sup>て<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>波<sup>100</sup>の<sup>100</sup>言<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>た<sup>100</sup>

永之末年又月内六日建中合意

おそめ

右京守奉

下<sup>100</sup>の<sup>100</sup>ほ<sup>100</sup>そ<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>は<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>め<sup>100</sup>て<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>波<sup>100</sup>の<sup>100</sup>言<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>た<sup>100</sup>

建中八年百首并合

三任忠定

か<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>い<sup>100</sup>の<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>め<sup>100</sup>て<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>波<sup>100</sup>の<sup>100</sup>言<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>た<sup>100</sup>

百首并中

東陽院御書

あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>の<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>め<sup>100</sup>て<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>波<sup>100</sup>の<sup>100</sup>言<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>た<sup>100</sup>

東陽院入る二宮親王家永年三任忠定

おそめ

源師光

あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>の<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>め<sup>100</sup>て<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>波<sup>100</sup>の<sup>100</sup>言<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>た<sup>100</sup>

あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>の<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>め<sup>100</sup>て<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>波<sup>100</sup>の<sup>100</sup>言<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>た<sup>100</sup>

持中物と師討合

あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>の<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>め<sup>100</sup>て<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>波<sup>100</sup>の<sup>100</sup>言<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>た<sup>100</sup>

あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>の<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>め<sup>100</sup>て<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>波<sup>100</sup>の<sup>100</sup>言<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>た<sup>100</sup>

持中物と師討合

あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>の<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>め<sup>100</sup>て<sup>100</sup>あ<sup>100</sup>ら<sup>100</sup>う<sup>100</sup>波<sup>100</sup>の<sup>100</sup>言<sup>100</sup>ま<sup>100</sup>た<sup>100</sup>

寛元三年法皇御百首

日

子ありあり

家集

徳利

あみ丸

やま

あまのうへにわたるうへは  
かみあひらひるのまゝよふに  
えきうへにわたるうへは  
あひらひるのまゝよふに

家集

和泉式部

あまのうへにわたるうへは  
かみあひらひるのまゝよふに

家集

あみ丸

あまのうへにわたるうへは  
かみあひらひるのまゝよふに

あまのうへにわたるうへは  
かみあひらひるのまゝよふに

八月百首

家集

あまのうへにわたるうへは  
かみあひらひるのまゝよふに

家集

あみ丸

...  
...  
...

...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...





天本和歌抄卷第二十六  
終

